

学生相談室だより NO. 22

「学生相談室だより」では、現代の若者に多い問題や悩みをテーマとして取り上げ、わかりやすくお伝えしています。ぜひ、自分の問題解決やこころの発達に役立てていただきたいと思います。今回から2回に渡って、摂食障害をテーマとします。

摂食障害①ーダイエットの危険

ダイエットは若い女性の美容上の理由だけでなく、健康上の理由から中高年にもブームとなっています。行き過ぎたダイエットの結果、拒食症などの摂食障害になるケースもあります。摂食障害は食行動異常の一つです。近年の特徴としては、思春期の女子だけでなく、前思春期の児童から中年期までと広がりを見せています。男性のケースも報告されています。拒食症のリバウンドから過食症に移行するケースも増えています。拒食症患者の50%以上が、発症後数ヶ月から数年のうちに過食症を合併するとの報告もあります(切池,2009)。すなわち、拒食症と過食症は相互移行的・重複的な病態であり共通性が多いのです。

摂食障害は大きく3つに分類されます。1) 極端な食事制限をしてしまう「拒食症(神経性無食欲症)」、2) 過激な量の食事を摂取する「過食症(神経性大食症)」、3) 「特定不能の摂食障害」。(DSM-IV-TRより)

摂食障害の分類



*多量の食物を嚙んで飲み込まずに吐き出す行為。

痩せ願望と肥満恐怖

切池 (2009) が大阪の小学校4年生から高校3年生 (男707人、女925人) を対象に行った調査を紹介します。

- 小学校4年生 (男女各100人) の女兒の約50%に痩せ願望、35%に肥満恐怖を認めた。
- 理由: 太ったらいじめられる、スタイルが気になる、好きな洋服が着れないなど。
- 標準体重80%以下と痩せているにも関わらずやせ願望を有する者が全体の24%。
- 食後に嘔吐や下剤の使用が男性で0.8%~1.5%、女性では1.1%~1.6%に認めた。

これらの結果では、すでに前思春期から体型へのこだわりが見られ、摂食障害のリスクを有していることがわかります。今回は、摂食障害のチェックリストを紹介します。

引用文献: 切池信夫「摂食障害における早期の症候と経過」精神科治療学, 24(8); 924-935, 2009.